

# DI 指数、4年連続プラスに

## 第65回冷凍空調機器需要予測調査報告

当会は、平成31年4月から5月17日までの期間に、第65回冷凍空調機器需要予測調査を実施した。同調査は全普通会員約3,300社を対象に調査票を送付、書面記入方式で実施した。その結果、5月17日までに回答のあった352社（回答率10.1%）について集計したものの報告である。（回答企業の地域別・業態別は、表1）

同調査は、年1回実施しており、昨年は4月に実施している。

### I. 最近の商況

#### DI指数プラス13.9ポイントと4年連続プラスに

「最近の商況」の質問では、「良い」「やや良い」と前年度を上回った企業は36.6%（同39.1%）、「やや悪い」「悪い」「非常に悪い」を合わせて22.7%（前回21.8%）となり、業況を占うDI（景況）指数はプラス13.9ポイント（同プラス17.3ポイント）となった。前回調査と比較して、3.4ポイントもマイナスとなったが、依然、DI指数が二桁プラスとなり、4年連続のプラスとなった（表2）。

日本経済は、最近の景気状況を見ると、景気動向指数は、景気の基調判断を6年2ヵ月ぶりに「悪化」に引き下げたが、5月の月例経済報告では、景気判断を下方修正したものの「緩やかに回復している」と維持している。

そのような状況の中、冷凍空調業界は、一部の企業の設備投資が堅調であることと、高効率機器への入れ替え、フロン排出抑制法対応、補助金制度の充実などに加え、昨夏の記録的な猛暑と学校空調の特需の相乗効果により、堅調に推移しているといえる。

表1 地域別・業態別回答数

	件数	空調設備	冷凍・冷蔵設備	その他	無回答
合計 (件) (%)	352 100.0	223 63.4	78 22.2	46 13.1	5 1.4
北海道地区	22 100.0	8 36.4	11 50.0	3 13.6	—
東北地区	44 100.0	26 59.1	12 27.3	5 11.4	1 2.3
関東甲信越静	116 100.0	72 62.1	25 21.6	17 14.7	2 1.7
中部地区	40 100.0	28 70.0	6 15.0	6 15.0	—
近畿地区	25 100.0	17 68.0	6 24.0	2 8.0	—
中国地区	34 100.0	26 76.5	2 5.9	6 17.6	—
四国地区	29 100.0	18 62.1	5 17.2	4 13.8	2 6.9
西日本地区	33 100.0	21 63.6	10 30.3	2 6.1	—

表2 最近の商況（地区別）

	件数	良い	やや良い	普通	やや悪い	悪い	非常に悪い	無回答
合計 (件) (%)	352 100.0	42 11.9	87 24.7	137 38.9	61 17.3	14 4.0	5 1.4	6 1.7
北海道地区	22 100.0	2 9.1	4 18.2	9 40.9	4 18.2	1 4.5	1 4.5	1 4.5
東北地区	44 100.0	2 4.5	11 25.0	21 47.7	6 13.6	3 6.8	—	1 2.3
関東甲信越静	116 100.0	17 14.7	23 19.8	50 43.1	19 16.4	2 1.7	4 3.4	1 0.9
中部地区	40 100.0	5 12.5	11 27.5	15 37.5	7 17.5	2 5.0	—	—
近畿地区	25 100.0	1 4.0	7 28.0	7 28.0	9 36.0	1 4.0	—	—
中国地区	34 100.0	3 8.8	11 32.4	10 29.4	8 23.5	2 5.9	—	—
四国地区	29 100.0	5 17.2	9 31.0	12 41.4	2 6.9	—	—	1 3.4
西日本地区	33 100.0	5 15.2	10 30.3	9 27.3	5 15.2	3 9.1	—	1 3.0

表3 最近の商況（業態別）

	件数	良い	やや良い	普通	やや悪い	悪い	非常に悪い	無回答
合計 (件) (%)	352 100.0	42 11.9	87 24.7	137 38.9	61 17.3	14 4.0	5 1.4	6 1.7
空調設備	223 100.0	27 12.1	62 27.8	81 36.3	40 17.9	10 4.5	2 0.9	1 0.4
冷凍・冷蔵設備	78 100.0	8 10.3	16 20.5	28 35.9	17 21.8	4 5.1	2 2.6	3 3.8
その他	46 100.0	6 13.0	9 19.6	25 54.3	4 8.7	—	1 2.2	1 2.2

表4 前年の売れ行き状況（パッケージエアコン）

	件数	良い	普通	悪い	無回答
合計 (件)	352	93	189	35	35
(%)	100.0	26.4	53.7	9.9	9.9
北海道地区	22	4	10	6	2
(%)	100.0	18.2	45.5	27.3	9.1
東北地区	44	13	20	5	6
(%)	100.0	29.5	45.5	11.4	13.6
関東甲信越静	116	29	64	10	13
(%)	100.0	25.0	55.2	8.6	11.2
中部地区	40	10	23	3	4
(%)	100.0	25.0	57.5	7.5	10.0
近畿地区	25	7	11	5	2
(%)	100.0	28.0	44.0	20.0	8.0
中国地区	34	11	19	2	2
(%)	100.0	32.4	55.9	5.9	5.9
四国地区	29	8	17	1	3
(%)	100.0	27.6	58.6	3.4	10.3
西日本地区	33	8	19	3	3
(%)	100.0	24.2	57.6	9.1	9.1

数値から判断すると、「良い」「やや良い」という企業と「悪い」という企業はほぼ横ばいとなっており、一時期、二極化してきているようであったが、業界全体が着実に回復しているようだ。

特にここ数年間で、DI指数がV字回復となっており、ここ6年間は高い水準で維持している。

地区別に見ると、「四国」（プラス41.3ポイント）、「西日本」（プラス21.2ポイント）、「中部」（プラス17.5ポイント）の各地区が15ポイント以上となり、西高東低のようである。この傾向は昨年へ続き3年連続である。その中でも、「四国」は、「悪い」「非常に悪い」と回答した企業はゼロであり、かなり良い状態であるといえる。その反面、「近畿」は、「やや良い」が28ポイントあるものも、「やや悪い」が36ポイントもあり、マイナス8ポイントとなった。唯一マイナスとなった。

業態別に見ると、猛暑や学校空調の影響もあり、「空調」が16.6ポイントとなった。また、スーパーやコンビニなど出店が鈍化した影響もあり、「冷凍・冷蔵」は1.3ポイントと僅かにプラスとなった（表3）。

## II. 冷凍空調機器の売れ行き状況

### PACは堅調に推移

パッケージエアコンの売れ行き状況では、「良い」は26.4%（前回調査25.2%）となり、「悪い」は9.9%（同10.0%）と昨年より減少しており、この傾向は3年連続となり、全体的に底上げとなった。また、2018年度のパッケージエアコンの出荷台数は、

表5 前年の売れ行き状況（冷凍・冷蔵ショーケース）

	件数	良い	普通	悪い	無回答
合計 (件)	352	13	106	117	116
(%)	100.0	3.7	30.1	33.2	33.0
北海道地区	22		12	9	1
(%)	100.0	—	54.5	40.9	4.5
東北地区	44	1	16	15	12
(%)	100.0	2.3	36.4	34.1	27.3
関東甲信越静	116	6	37	32	41
(%)	100.0	5.2	31.9	27.6	35.3
中部地区	40	2	5	11	22
(%)	100.0	5.0	12.5	27.5	55.0
近畿地区	25		8	10	7
(%)	100.0	—	32.0	40.0	28.0
中国地区	34		13	11	10
(%)	100.0	—	38.2	32.4	29.4
四国地区	29	2	5	11	11
(%)	100.0	6.9	17.2	37.9	37.9
西日本地区	33	2	8	14	9
(%)	100.0	6.1	24.2	42.4	27.3

（一社）日本冷凍空調工業会発表によると前年度比106.4%の約87.9万台とバブル期以外では過去最高となり、ほぼ同じ傾向を示し、依然、高い水準を維持している（表4）。

一方、コールドチェーン機器の売れ行き状況では、冷凍・冷蔵ショーケースは、「良い」と回答した企業は3.7%（同3.0%）で、「普通」が30.1%（同30.6%）、「悪い」が33.2%（同39.4%）となった。また、2018年度の冷凍冷蔵ショーケースの出荷台数は、前年度比93.9%の28.4万台と減少し、6年ぶりに30万台を下回った（表5）。

冷凍冷蔵庫は、「良い」は8.5%（同7.0%）、「普通」は35.5%（同39.4%）、「悪い」が25.9%（同27.9%）と鈍さが見られる。また、業務用冷蔵庫の出荷台数は、前年度比96.8%の23.0万台となり、2009年度以来のマイナスとなった（表6）。

### 見通しは前年並

これに対し、今年度の見通しでは、パッケージエアコンにおいて「良い」と回答した企業は27.8%と、前年度実績の「良い」の21.2%と比較して、今年度はさらに楽観的な見方をしているが、「普通」（46.3%）と合わせると7割以上が好調だった前年度並みかそれ以上に推移すると見通している。また、冷凍冷蔵ショーケースでは、「良い」は3.1%、「普通」は28.1%、「悪い」は35.5%と前年度実績と比較して、同じような状態が今年度も続くとの見方をしてい

表6 前年の売れ行き状況（業務用冷蔵庫）

	件数	良い	普通	悪い	無回答
合計 (件) (%)	352 100.0	30 8.5	125 35.5	91 25.9	106 30.1
北海道地区	22 100.0	1 4.5	15 68.2	6 27.3	—
東北地区	44 100.0	4 9.1	18 40.9	11 25.0	11 25.0
関東甲信越静	116 100.0	12 10.3	43 37.1	23 19.8	38 32.8
中部地区	40 100.0	1 2.5	11 27.5	8 20.0	20 50.0
近畿地区	25 100.0	2 8.0	7 28.0	9 36.0	7 28.0
中国地区	34 100.0	1 2.9	14 41.2	10 29.4	9 26.5
四国地区	29 100.0	4 13.8	7 24.1	9 31.0	9 31.0
西日本地区	33 100.0	4 12.1	7 21.2	13 39.4	9 27.3

表7 今年の売れ行き見通し（パッケージエアコン）

	件数	良い	普通	悪い	無回答
合計 (件) (%)	352 100.0	98 27.8	163 46.3	51 14.5	40 11.4
北海道地区	22 100.0	5 22.7	9 40.9	5 22.7	3 13.6
東北地区	44 100.0	13 29.5	18 40.9	7 15.9	6 13.6
関東甲信越静	116 100.0	28 24.1	60 51.7	13 11.2	15 12.9
中部地区	40 100.0	10 25.0	19 47.5	7 17.5	4 10.0
近畿地区	25 100.0	6 24.0	11 44.0	6 24.0	2 8.0
中国地区	34 100.0	10 29.4	16 47.1	4 11.8	4 11.8
四国地区	29 100.0	10 34.5	12 41.4	4 13.8	3 10.3
西日本地区	33 100.0	12 36.4	15 45.5	4 12.1	2 6.1

表8 今年の売れ行き見通し（冷凍・冷蔵ショーケース）

	件数	良い	普通	悪い	無回答
合計 (件) (%)	352 100.0	11 3.1	99 28.1	125 35.5	117 33.2
北海道地区	22 100.0	—	11 50.0	9 40.9	2 9.1
東北地区	44 100.0	1 2.3	15 34.1	16 36.4	12 27.3
関東甲信越静	116 100.0	4 3.4	35 30.2	36 31.0	41 35.3
中部地区	40 100.0	1 2.5	6 15.0	11 27.5	22 55.0
近畿地区	25 100.0	1 4.0	7 28.0	9 36.0	8 32.0
中国地区	34 100.0	—	12 35.3	11 32.4	11 32.4
四国地区	29 100.0	2 6.9	6 20.7	10 34.5	11 37.9
西日本地区	33 100.0	2 6.1	5 15.2	20 60.6	6 18.2

る。冷凍冷蔵庫も冷凍冷蔵ショーケースとほぼ同じ傾向を示している（表7～表9）。

### Ⅲ. 「引取証明書」の交付方法について

#### 過半数は「影響あり」

現在、フロンの回収率向上のために、確実に回収を促す方策として、現在、機器廃棄時にフロン回収した際、物件ごとに交付する「引取証明書」を機器1台ごとに交付するという意見がある。つまり、効率的に回収するために複数台同時に回収していたものが、機器1台ずつ回収する必要が生じる。

そこで、今回のアンケートに「引取証明書」の交付方法を変更した場合の影響を盛り込み、実態を把握した。

始めに、影響があるかを確認したところ、56.8%と過半数の方が「影響がある」と回答し、「影響ない」は、41.8%だった。また、その影響については、「回収機やポンペを複数用意しなければならず、手間と費用がかかる」と回答した方は70.5%と7割を超え、次いで「時間がかかるため、回収費用が増え、廃棄者の理解が得られない」が62.5%と6割を超えた。その他の回答としては、「書類が増えるため、手間、時間がかかる。廃棄者の負担も増える」がほとんどであった。

実際に「複数台まとめて回収している」ケースはどのくらいあるかについては、8割の方が回答し、総回収台数の5割未満が6割となった（表10～13）。

表9 今年の売れ行き見通し（業務用冷蔵庫）

	件数	良い	普通	悪い	無回答
合計 (件) (%)	352 100.0	24 6.8	117 33.2	102 29.0	109 31.0
北海道地区	22 100.0	—	14 63.6	7 31.8	1 4.5
東北地区	44 100.0	5 11.4	15 34.1	13 29.5	11 25.0
関東甲信越静	116 100.0	9 7.8	42 36.2	26 22.4	39 33.6
中部地区	40 100.0	1 2.5	7 17.5	11 27.5	21 52.5
近畿地区	25 100.0	3 12.0	6 24.0	9 36.0	7 28.0
中国地区	34 100.0	2 5.9	12 35.3	10 29.4	10 29.4
四国地区	29 100.0	2 6.9	8 27.6	10 34.5	9 31.0
西日本地区	33 100.0	2 6.1	9 27.3	15 45.5	7 21.2

表10 回収機器1台（室外機）につき引取証明書を1枚交付した場合の問題や影響の有無

	件数	ない	ある	無回答
合計 (件) (%)	352 100.0	147 41.8	200 56.8	5 1.4
北海道地区	22 100.0	11 50.0	11 50.0	—
東北地区	44 100.0	17 38.6	25 56.8	2 4.5
関東甲信越静	116 100.0	51 44.0	64 55.2	1 0.9
中部地区	40 100.0	14 35.0	26 65.0	—
近畿地区	25 100.0	8 32.0	17 68.0	—
中国地区	34 100.0	12 35.3	22 64.7	—
四国地区	29 100.0	14 48.3	14 48.3	1 3.4
西日本地区	33 100.0	16 48.5	16 48.5	1 3.0

表11 どのような問題や影響がありますか

表10 回収機器1台（室外機）につき引取証明書を1枚交付した場合の問題や影響の有無…ある

	件数	時間がかり時間内に終わらず、回収しきれない場合がある	回収費用が増え、廃棄者に理解が得られない	回収機やポンペを複数用意するので、手間と費用がかかる	その他	無回答
合計 (件) (%)	200 100.0	77 38.5	125 62.5	141 70.5	36 18.0	1 0.5
北海道地区	11 100.0	6 54.5	6 54.5	10 90.9	5 45.5	—
東北地区	25 100.0	8 32.0	16 64.0	20 80.0	5 20.0	—
関東甲信越静	64 100.0	26 40.6	37 57.8	45 70.3	11 17.2	—
中部地区	26 100.0	9 34.6	17 65.4	17 65.4	4 15.4	—
近畿地区	17 100.0	6 35.3	10 58.8	11 64.7	3 17.6	—
中国地区	22 100.0	7 31.8	13 59.1	17 77.3	4 18.2	—
四国地区	14 100.0	7 50.0	12 85.7	8 57.1	1 7.1	—
西日本地区	16 100.0	8 50.0	12 75.0	9 56.3	3 18.8	—

表12 機器廃棄時にフロン回収する場合、複数台まとめて回収する場合はありますか

	件数	ない	ある	無回答
合計 (件) (%)	352 100.0	59 16.8	283 80.4	10 2.8
北海道地区	22 100.0	5 22.7	16 72.7	1 4.5
東北地区	44 100.0	8 18.2	34 77.3	2 4.5
関東甲信越静	116 100.0	19 16.4	96 82.8	1 0.9
中部地区	40 100.0	5 12.5	34 85.0	1 2.5
近畿地区	25 100.0	2 8.0	22 88.0	1 4.0
中国地区	34 100.0	8 23.5	26 76.5	—
四国地区	29 100.0	5 17.2	22 75.9	2 6.9
西日本地区	33 100.0	4 12.1	28 84.8	1 3.0

表13 複数台まとめて回収する割合

表12 機器廃棄時にフロン回収する場合、複数台まとめて回収する場合はありますか…ある

	件数	1割未満	1割～4割	5割程度	6割～8割	8割以上	無回答
合計 (件) (%)	283 100.0	39 13.8	134 47.3	42 14.8	34 12.0	31 11.0	3 1.1
北海道地区	16 100.0	2 12.5	7 43.8	5 31.3	1 6.3	1 6.3	—
東北地区	34 100.0	6 17.6	18 52.9	7 20.6	1 2.9	2 5.9	—
関東甲信越静	96 100.0	13 13.5	47 49.0	11 11.5	14 14.6	9 9.4	2 2.1
中部地区	34 100.0	8 23.5	13 38.2	4 11.8	5 14.7	4 11.8	—
近畿地区	22 100.0	1 4.5	11 50.0	2 9.1	3 13.6	5 22.7	—
中国地区	26 100.0	5 19.2	12 46.2	5 19.2	4 15.4	—	—
四国地区	22 100.0	1 4.5	7 31.8	3 13.6	3 13.6	7 31.8	1 4.5
西日本地区	28 100.0	2 7.1	16 57.1	4 14.3	3 10.7	3 10.7	—